

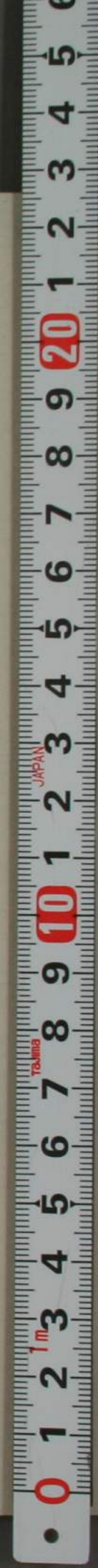


為龍疳中丸

奥州刈田郡齊川邑
 銘産孫太良虫本草
 漢銘九香虫小兒五
 疳之大效藥也

奥州刈田郡
 齊川驛略圖

河水急流如
 飛泉九香虫
 産于此河中
 石下



中より出産するは先祖の二氣脈よりなり。我子よりなりとも祖先の種ありはつと慈愛
を加へて宜教諭なり。常に觀麻の中より蓬よりなるものハ烈風を祛の故ありし
雖為光婆深切重而鼓兩片皮世の諺に猿に腸断とありてあり猿ハ生質驕りた獸ありて
子猿を猿人の耐る時ハ親猿斃らるるを聞。是何故ありてハ其猿兒をこゝれ悲歎また
をこゝて腸断と切と斃とあり是を猿ハ断腸とあり。羊ハ臑を折の禮と云りあり
羊ハ至て柔ある獸にして性の靜なるもの也。鄭蜀の花乃香を見てハ母の乳房と思膝を
折頭を垂て禮儀多しとあり是を羊ハ膝を折の禮とあり。鳩に三枝鳥ハ反哺ハ車繁
故に是ハ畧を。是等の禽獸ハ親をこゝれ子ヲ思ふの如斯セリありや況や人間
とありて其子を愛して教ふるハ此意を味わて小兒を養育するハ其兒良成人能祖
の營業を相續家豊ふ榮ふ事疑也。○夫人の出産や母の胎内は血を以て養育受るを先天の養と
謂十月やて後母の胎内を分塊て水穀の精力を以て養育を受るを後天の養とて二川の養を以

生後侍者を養育と云事也。其先天より時其父母の嬌欲を盡母も亦口味を忍みて禁忌を侵
故に出産子病多し。或ハ天より降るものハ唐山ハ胎教とて胎中より其子を教と云。是則列女
傳の説を能鑑也。蓋高貴人ハ年々子を産む其兒毎に乳母を擇是乳を與養育
らるる也。自其下未蒙家ハ其子を里子とて能乳のある婦人を撰て是を養育する也。元來貧賤
くじの人毎年子を生産時ハ養育の乏しき故に稀粥を與或ハ食を乏しき謾小食を與
故に小兒の脾元弱斃らるる。一過食する故に大害あり或ハ腹中に虫を生。或ハ脾胃衰故に
痢病泄瀉を病と多し死する者あり不死も跛斃とあり。或ハ癩の病を生或ハ替者あり生質ら廢人
或者多。憫て救むるハ余々家醫を業として五世及んで普嬰子の病苦を救ん九意
を推し思惟救一寤る寐る唐山の諸書を閲して効要を撰。又若冠のあり哲人に隨身て
習ひ字の家秘の奇方を組て命て疳中丸と号す。此藥溫潤にして能筋骨を養脾胃を
健骨の體を通る心火以鎮顔色を潤澤。預ら瘡癩疹の毒を解。腹内に生る虫

殺病病を治し、泄瀉を治し、疳積を治し、神の力を長服用する。百病を生ず。病ある小兒、小兒の歳の數の倍を與ふ。一日小四度、平日より歳の數を量て、一日に三度、何れ白湯を與ひ、益有て損なし。餘の藥、子相合也。○此藥、重て烏龍疳中丸、名者、邦國の内、小齋川邑とす。所有其村内、山川あり、是即齋川也。其川の石の下に、潜伏虫あり、所の者、方言、孫太良虫と云て、能小兒の五疳を治す。世の人、普く是、孤貴重とす。日に、廣大也。余是、孤本、平、考るに、孫太良虫、即本草、卵生の部、子、九香虫とす也。主治、膈腕の滯氣、治、脾胃腎の虧損、壯元陽とす。云々。附方に、烏龍丸有て、上證を主治、久服を、小兒、益ありとす。孫太郎、烏龍丸方中、有て、此方の妙用なりとす。是本草、明訓也。烏龍丸、世人をして、能毒域、子、孫、し、の一助也。依て、合調て、是を烏龍疳中丸とす。此藥を、廻用する時、小兒の氣、榮を直顔色を潤澤、鼻下の赤爛るを消し、好て、炭土を、醫面部の小瘡を、瘡、小便の頻、致、或小便の白濁を治し、小兒の疳、勞を主治し。未知、効能方、其効速とす。用て、知へ。余、今有此舉也。庶幾、欲使為、赤子、養育之一助。烏文化十有四年、丁丑二月十五日記。